

【一】次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

著作権者のHP掲載の了解が現在得られておりません。

問一 二重傍線部 a～e のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部 「このような関係のつくられ方」とはどういうことか。(1) 人間と自然との関係のつくられ方、(2) 人間と人間との関係のつくられ方に分けて、それぞれ六十文字以内で説明しなさい。

問三 傍線部 「私たちの生きる世界全体が変わっていった」とは、どのような世界に変わったということか。百字以内で説明しなさい。

問四 傍線部 「人間と等身大の時間スケール」について、

- (1) 「人間と等身大の時間スケール」とはどういうことか。内容を簡潔に説明しなさい。
(2) 「人間と等身大の時間スケール」と反対の内容の語句を五字以内で抜き出し、その内容を簡潔に説明しなさい。

問五 波線部「現在の課題のひとつは、この変化をいまどう考えていくかである」について、波線部以降の部分を参考にして、筆者の考えを八十文字以内で説明しなさい。

【二】源平の合戦で捕虜となった平重衡(平清盛の子)は、梶原景時に護送されて都から鎌倉に下った。次の文章はその途中のことを述べた『平家物語』の一節である。これを読み、後の問いに答えなさい。

なお、文中の()内は出題者が加えた現代語訳、ないしは説明である。

都を出でて日数ふれば、弥生もなれば過ぎ、春もすでに暮れなんとす。遠山の花は残ん(残り)の雪かと見えて、浦々島々霞みわたり、来し方行く末の事ども思ひ続けたまふに(なさつて)、()さればこれはいかなる宿業のうたてさぞ()といったい、なんの因縁でこんな情けないことになったのだらう()とのたまひて、ただ尽きせぬものは涙なり。

御子の一人もおはせぬ事を、母の二位殿(平清盛の妻)も嘆ぎ、北の方大納言の典侍殿(北の方)は重衡の妻のことで「大納言の典侍殿」と呼ばれていた(も本意なきことにして)残念がつて()よろづの神仏に祈り申されけれども、そのしるしなし。「かしこうぞ(賢明にも)なかりける。子だにあらましかば、いかに心苦しからん」とのたまひけるこそ、せめての事なれ。

さやの中山(静岡県にある峠道)にかかりたまふにも、また越ゆべしともおぼえねば(思われないので)いとどあはれの数そひて()増して()袂(たもと)ぞいたくぬれませる。

(『新日本古典文学大系』に準拠した)

問一 傍線部 「遠山の花は残んの雪かと見えて」、「来し方行く末の事ども思ひ続けたまふに」を現代語訳しなさい。

問二 傍線部 「かしこうぞなかりける。子だにあらましかば、いかに心苦しからん」と重衡は口に出しているが、どうしてそのような気持ちになったのか、六十文字以上、八十文字以内で説明しなさい。

問三 傍線部 「さやの中山にかかりたまふにも、また越ゆべしともおぼえねば、いとどあはれの数そひて」は、次の西行の和歌を踏まえた表現である。西行の和歌の意味を織り込んで、傍線部を百五十文字以上、二百字以内で解釈しなさい。ただし、答えは次のような文章のかたちとする。

「西行は……………と詠じているのに対して、重衡は……………ので、いつそう悲しみを増して、「

年たけてまた越ゆべしと思ひきや命なりけりさやの中山

西行(『新古今和歌集』より)

問四 傍線部

「袂ぞいたくぬれまさる」を語句を補って現代語訳しなさい。

- * 「年たけて」は「年長けて」と漢字で書く
- * 「命なりけり」は「生きながらえていたからだなあ」の意